

不幸があった場合の“神棚”や“おふだ”のおまつりの仕方を教えてください。



「家で葬式を出したから」「親戚に不幸があったから」そんな理由で「おふだ」(大神宮・氏神・年神さまなど)をおまつりせず、一年を過ごしてしまっていないませんか？
実は誤解なのです。
ご不幸があった場合の「神棚」や「おふだ」のおまつりの仕方について、正しい知識を身につけておきましょう。

「神棚」のまつり方

ケース1 家でお葬式をしました。(家族が亡くなりました)

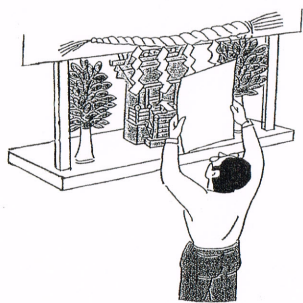
答 五十日まで正面に白紙をはります。

五十日(仏教でいう四十九日)までは「忌中」ですので、神棚の正面に白紙をはり、神まつりは遠慮します。
五十日を過ぎましたら(＝忌み明け)白紙をはずし、神まつりを再開します。

ケース2 親戚(身内)で不幸がありました。

答 いつも通り、おまつりします。

親戚(身内)は別の家ですので、自分の家の神まつりはいつも通り行います。



「おふだ」のまつり方

ケース1 家でお葬式をしました。(家族が亡くなりました)

答 五十日が過ぎたら、おまつりします。

「お正月のおふだ」(迎春神札)は例年通り受けます。
「忌中」(亡くなってから五十日間)にお正月を迎えた場合、神棚にはさわらず、受けた「おふだ」を袋に入れたまま、または半紙に包んで大切に保管しておき、忌み明け後、「おふだ」を取り替えます。

ケース2 親戚(身内)で不幸がありました。

答 いつも通りおまつりします。

葬儀家(お葬式を出した家)ではないので、いつも通りおまつりすることが大切です。

天
昭
皇
大
神
宮

*祭礼の「おふだ」なども、これにならっておまつりします。
ご不明な点等ございましたら、地元の神社(氏神神社)までご遠慮なくお尋ねください。